

### \* 野辺山太陽電波観測所起工式の写真発見

東京天文台 100 周年記念誌資料という段ボール箱 3 個があった。その資料の中に広瀬秀雄元台長のアルバムが 1 冊あった。そのアルバムには貴重な写真が何枚もあったが、その中に野辺山太陽電波観測所の起工式の写真があったので紹介したい。当時は広瀬台長、下村事務長の時代で日付は 1968 年 5 月 6 日となっている (写真 1)。



写真 1 広瀬台長が祭壇に向かっているところ

東京天文台は、東京大学の研究所の一つであったから国の機関である。これ等の写真は、どう見ても神事を行っているように見えるが、国の機関が一宗教の形式によった起工式を行ったとは思われない。筆者が関係したハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の起工式の宗教的な行事は国立天文台が主宰することはなかった。おそらくこの野辺山太陽電波観測所の起工式の写真の神事の主催者は工事関係者であつたろうと思われる。

この記録写真で見ると、日本の伝統的な神道の神事のように見える。日本では多くの場合、建築物の起工時には神道による神事が行われるが、日本人にはこの行事は習慣のようなもので宗教色をほとんど感じていないのが実情だろう。

以下にアルバムにあった写真を紹介する。



写真2 祭壇に向かう広瀬台長



写真3 鍬入れを行う関係者



写真4 鍬入れを行う広瀬台長



写真5 挨拶をする神官



写真6 神官による神事



写真6 広瀬台長と高倉教授

戦後、東京天文台は昭和25年(1950年)乗鞍コロナ観測所、昭和35年(1960年)岡山天体物理観測所、昭和37年(1962年)堂平観測所と開設していき、昭和43年(1968年)には野辺山太陽電波観測所の建設を始め、昭和44年(1969年)には完成、開所式を行っている。1968年には岡山天体物理観測所に65cm太陽クーデ望遠鏡が完成している。このように東京天文台は着実に歩を進めていた。

その後、昭和49年(1974年)には木曾観測所の105cmシュミット望遠鏡が完成し、開所式を行った。そして昭和53年(1978年)には野辺山宇宙電波観測所が完成しているの

る。この 30 年足らずの間に東京天文台は大きな進展をしたのである。



写真 8 左：広瀬台長、右：下村事務長



写真 9 祝杯をあげる関係者



写真 10 万歳三唱する関係者

東京天文台 100 周年記念誌資料の中にあつた広瀬元台長のアルバムにあつた野辺山太陽電波観測所起工式の写真は以上の 10 枚であつた。